

太宰府市短歌ポスト第百二十六期

入選歌（令和七年五月二十三日）

撰者 竹森 祐彦

太宰府を歩けば石碑あちこちと消えし文字をばたどりつつ読む

壱岐市芦辺町 加藤 えつ子

夕さりの梅に別れを告げながら幾度も見返る曲水の庭

福岡市中央区 猿田 有里

たつぷりと春の日差しと春の風纏まといて巡る万葉の歌碑

福岡市中央区 白井 道義

早春の天満宮に遠く来て妻とし見入る曲水の宴

うきは市浮羽町 川原 佳秀

蕭々せうせうと北風の吹く水城跡鋤すき鋤振るふ防人の頭さきもちつ

春日市松ヶ丘 田久保 節子

太宰府の梅のつぼみが咲く頃にともに叶えよ若人の夢

東京都多摩市 今井 智大

夕暮れの君の瞳に写る雪思いとともにつもる太宰府

大阪府和泉市 福井 翔也

遊園地から飛ぶしゃぼん玉神苑にほころぶ梅の上で弾ける

佐賀県唐津市 古川 いな子

小・中学生の部

志学なる門出を祝う天神の梅は散りつつサクラ咲きつつ

福岡市中央区 山口 陸